



TITLE:

研究開発コロキウム(2007年度): 落ちこぼれをつくらないための教育制度研究 -アメリカを事例として-

AUTHOR(S):

齋藤, 桂

CITATION:

齋藤, 桂. 研究開発コロキウム(2007年度): 落ちこぼれをつくらないための教育制度研究 - アメリカを事例として-. 子どもの生命性と有能性を育てる教育・研究をめざして 2012, 活動報告書(2007-2011年度): 91-91

ISSUE DATE:

2012-03-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/179714>

RIGHT:

▶教育・研究プログラム▶研究開発コロキウム（2007年度）

落ちこぼれをつくらないための教育制度研究 — アメリカを事例として —

研究代表者：齋藤 桂（D1）

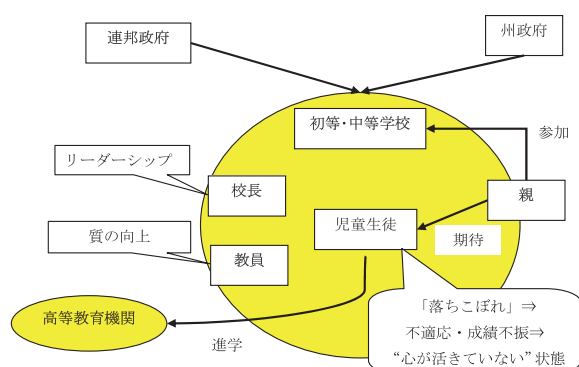
研究分担者：桐村 豪文（M2）

三宅 浩子（M2）

1. 研究の概要

本コロキウムでは、現在のアメリカにおいて、落ちこぼれをつくらないためにどのような教育制度がつけられ、実践されているか研究を行った。

授業では、比較教育学研究室と教育行政学研究室の院生を中心に、教育方法学研究室の研究生も加わって実践例の紹介から統計資料の分析・考察まで参加学生の興味・関心に基づいて幅広くカバーした。毎回の授業では担当者を二人決め、担当者が準備してきたレジュメなどに沿って考察および議論を行った。



2. メンバーの役割

【齋藤】：初等中等教育段階において、親の教育参加が子どもの教育達成に与える影響を考察する。具体的には、親の教育参加を①連邦法、②校長のリーダーシップ、③教職員のスキル、④家庭ごとの教育戦略の観点から検討する。

【桐村】：高等教育段階において、学生の進路選択や学生のニーズ等を考慮した大学経営戦略の観点から、学生の高等教育へのアクセスを検討する。

【三宅】：教員の質を向上させる方策について、主に①連邦法、②州法、③教員資格・教師教育システムの観点から、検討する。

3. 活動状況

以下の通り、隔週でディスカッション中心の授業を行うとともに、参加学生の一部は1月末にワシントンD.C. に赴き、国立公文書館や議会図書館、連邦教育省内にある国立教育図書館にて日本国内やオンライン上では入手できない資料の収集を行った。

2007年

10月4日（2時間）

オリエンテーション

- ・授業の運営計画、課題意識の明確化
- ・文献や資料の配布
- ・次回以降の発表について

10月25日（2時間）

- ・イントロダクション
- ・アメリカにおける教育の現状
- ・落ちこぼれの定義

11月15日（2時間）

- ・No Child Left Behind の概要
- ・教員の質向上のための取り組み

11月29日（2時間）

- ・NCLB における具体的な規定内容
- ・NCLB における高等教育法について
- ・LexisNexis の活用方法

12月6日（2時間）

- ・学力と家庭の関係についての考察
- ・50州および特別行政区におけるテストスコアに関する統計資料の分析

12月20日（2時間）

ワシントンD.C. について

- ・ワシントンD.C. のテストスコアは他州と比較してどうしてこれほど低いのか検討
- ・人口動態や住みやすさなどの統計資料を分析

2008年

1月21～25日 現地調査（アメリカ合衆国）

ワシントンD.C. にて資料収集

1月31日 総括（2時間）

- ・ディスカッション
- ・報告書の作成について

4. 研究の成果

本コロキウムの成果としては、成果報告書の提出および研究成果発表会の実施等により、研究成果を公表する（年度末）。

報告書では、これまでの初等中等教育法と2002年に制定された新しい初等中等教育法であるNo Child Left Behindとの比較を行った。その中で、「落ちこぼれをつくらない」と銘打った同法の下での教育制度は、親の教育参加や教員養成および補助金の弾力的運用等の包括的な制度設計に基づくものであると明示化した。

（文責：齋藤 桂）